

煙台国際ワイン祭が開幕 海外顧問会議に協会も参加

第5回煙台国際ワイン祭が9月23日、煙台の国際博覧センターで開かれた。山東半島ブルー経済区海洋食品博覧会及び第12回国際果物野菜・食品博覧会も同時に開催された。また、午後には



ワイン祭が開かれた煙台国際博覧センター

煙台市海外招商顧問円卓会議が開かれ、当協会の片寄浩紀専務理事が参加した。開幕式では山東省の孫偉副省長、張江汀煙台市党書記、南アフリカ西ケープ州の副知事、韓国蔚山市の市長などがあ

いさつし、仕掛け花火の轟音と共に開幕した。日本からもワインの専門家などが来場していた。国際ワイン祭の会場では世界的に有名な煙台の

張裕集団が各種ワインの展示・試飲コーナーを設けていたほか、南アフリカ、アメリカなどのワインメーカーが出品していた。果物野菜・食品フロアでは地元各地のリンゴやナシが工夫をこらして展示された。

海外招商顧問会議も同日開催中(写真・文：日中友好会館)のシリーズ(おわり)



1950年に創立された国立の歌舞劇院。モンゴル族を中心として、八つの民族で構成され、国内外から高く評価されている。21日から23日まで同歌舞劇院の公演が同会場で行われる。関連の展覧会も23日まで開催中(写真・文：日中友好会館)のシリーズ(おわり)

サロン de 中国

「大草原からの響き2011」より⑤
フルンポル民族歌舞劇院

休日の朝と言えば飲茶。広州では「早茶」と呼ばれている。家の近所にも「早茶」をやっているレストランがあるのだが、ここがなかなかの人気。精気をむさぼっていると食べ物が全て売り切れてしまう。朝10時に訪れても売り切れて「今日はもうおしまい」と門前払いされてしまうのだ。

しかし食べられないと思うと食べたい気持ちばかりが強くなるのが人の心理というもの、友人と約束して7時半に店を訪れた。驚いたことに7時半でも店は満席。店員に頼み込んで小さなテーブルを用意してもらい、ようやく席に着くことができた。

お客は全てお年寄り。若者の姿は見当たらず、近所にこんなには沢山お年寄りが住んでいたのかと驚いたが、どうやら「早茶」は近所の老人たちが集まる週末の習慣のようだ。

「早茶」のメニューはいわゆる「点心」、「焼売」や「エビ餃子」、「春巻」や「大根餅」など定番の料理から、お粥や種類まで様々な料理が並んでいる。値段は1皿10~25元程度で手軽に楽しめる。この店は伝票を持って

ものらしいが、私たちはもちろん朝から点心をつまみにビールを飲んでいた。お年寄りたちは若いもの(たいして若くないが)が珍らしいのかしきりに私たちの席にきて話しかけてくれるのだが、広東語であるため意味は一言もわからない。だがあまりに厚顔な笑い話で話しかけてくれるので、北京語で言い直してくれと頼むのも気が引けて、そのままこちらも笑顔でうなずいた。暫とにかく元気だ。

初めて訪れた「早茶」だったが、元気なお年寄りの姿を見て、なんだか気持ちの良い週末の朝になった。この「早茶」文化、急速に発展していく広州と言う都市の中でもいつまでも残って欲しいものだ。そんなことを思った。(フリーライター・程田 聡哉)

料理を取りに行き、取った分だけ伝票にスタンプを押してもらおうスタイル。セイロを開けては何が入っているかなと探す楽しみがある。一般的にはお茶を飲みながら何時間も談笑する

ものらしいが、私たちはもちろん朝から点心をつまみにビールを飲んでいた。お年寄りたちは若いもの(たいして若くないが)が珍らしいのかしきりに私たちの席にきて話しかけてくれるのだが、広東語であるため意味は一言もわからない。だがあまりに厚顔な笑い話で話しかけてくれるので、北京語で言い直してくれと頼むのも気が引けて、そのままこちらも笑顔でうなずいた。暫とにかく元気だ。

初めて訪れた「早茶」だったが、元気なお年寄りの姿を見て、なんだか気持ちの良い週末の朝になった。この「早茶」文化、急速に発展していく広州と言う都市の中でもいつまでも残って欲しいものだ。そんなことを思った。(フリーライター・程田 聡哉)

くら？」と値段を聞かれる。中国人特有のネットワークですでに価格の相場は調査済みという場合が多い。ニコニコしながら「その値段は高いな」と語る彼らは、完全に価格交渉を楽しんでいるように見える。日本製の製品は価格の面では中国製品に勝てないことが多い。「討價還價」が始まる前に性能の紹介、ブランドコンセプトの紹介ができれば、商談を有利に進めることができそうだ。(シー・コミュニケーションズ代表取締役 大羽りん)

言葉から見た中国人の考え方

⑨ 討價還價
「討價」とは売り手の言い値、オファー価格のこと、「還價」とは買い手がその言い値に対して値切ること、カウンターオファーとも言う。「値段の駆け引き」と訳すとちょうどいい単語だ。ご存じの通り中国では百

貨店やスーパー以外では定価販売ではない。小さな商店では値札も付いていない。買い物客を品定めて売れそうな値段をつける。客は値段を聞いて、店主と価格交渉することが一般的なパターンとなっている。日本人の目にはほとんど見えぬこの光景だが、中国人は何軒も店を回って、「討價還價」をし、一番安いところで買うのはあたりまえのことだ。中国ビジネスでは価格が勝負とよく言われている。商談が始まると、まず「い

近者の図書紹介

『中国のエリート高校生日本滞在記』張雲裳、人見豊編著・日本橋報社・1900円+税

08年5月31日から6月5日までの6日間、北京第四高等学校の2年生400人余りが修学旅行として日本を訪れた。本書は彼らが日本滞在中に感じたことをつづった1冊だ。日本は「きれい」。サービスが行き届いている。ルールを守る。狭いなどよく言われることが書かれているが、今後を担う高校生が自分自身の体験に基づいて書いており、一読に値する。日本の特色はさまざまな事例から発見でき、彼らが選んだ事例には思いがけないモノもある。「日本の『手洗文化』小考」はその一つである。

修学旅行生は東京班と大阪班に分かれ、東京班は慶應高校を訪問、同校の生徒と交流した。本書の翻訳は慶應高校の中国語教諭を中心に行われた。編者の張雲裳氏は北京第四高等学校副校長、人見豊氏は慶應高校最初の中国語教員で、受け入れに中心的な役割を果

たした。(産経歩)

『日常・ビジネスに役立つ中国語の30スピーチ』塚本慶一、井上俊治著・研究社・1900円+税
日本と中国の交流が活発となり、中国語で発言する場がますます増えている。本書は通訳を介さず、30秒から1分程度のスピーチができるようになることを意図して作られた学習教材である。著者の塚本氏は中国語通訳、井上氏は中国ビジネスの分野でそれぞれ豊富な経験があるため文章に教材くささがなく、現場で飛び交っているかのようなリアルな表現が目につく。

宴会、ゴルフコンペ、結婚式など、日常生活やビジネスでよく遭遇することでありながら、学校の教材ではなかなか登場しない場面を設定しているのも興味深い。基本的に日本人がよく使う表現を中国語に訳すというスタイルで一つ一つのスピーチが書かれているため、通訳者の学習教材としても活用できる。基礎的な事項をマスターした中国語学習者が、次の段階に入るために適した中級者向けの1冊である。(白水)

僅物

北京市投資説明会
北京市投資促進局と日中経済協会は「第八回北京市投資説明会」を開催する。政府担当会より12・5計画や重点産業に関する発展政策(生物医薬、物流、LED、LCD、金融、地域本部機能など)について説明するほか、日本企業の北京での経験談なども紹介する。
北京市は中央政府関係機関、研究機関・大学、大型国有企业の本部などが集まっており、拡大を続ける中国市場の開拓に際し、その重要性、位置付けが高まっている。当協会などが

協力する。
日時：10月11日(水)14:00~17:30(受付13:30~)
会場：ザ・ベネチアン東京ホテル3F 電話03-6270-2888
講演機関：北京市朝陽区、北京市通州区、北京市昌平区、京東方(BOE)、北京に進出している日系企業、野村総合研究所
参加費：無料
定員：150人
問い合わせ：当協会業務本部 電話03-6740-8271

外貨名	人民元
100日本円	8.3271
100米ドル	636.65
100香港ドル	81.62
100ユーロ	961.48

(中国人民銀行 9月29日発表)

CC COMMUNICATIONS
中国語翻訳・通訳
ビジネス通訳、契約書、各種プレゼン、各種資料の翻訳、同時/逐次通訳
中国語研修
外国人社員向け研修、社務研修、異文化研修、日中コミュニケーション研修
中国語研修
企業研修からプライベートレッスンまで
ビジネス中国語、検定中国語
新シー・コミュニケーションズ
代表取締役 大羽りん
東京都中央区東銀座3-35-11-201
TEL:045-313-1234

上海の最も代商の日本企業を提携
上海と日本 貿易の発展の窓口
上海国際株式会社
SHANGHAI INTERNATIONAL TRADING CO., LTD.
代表取締役社長 孟 繁 雷
〒104-0068
東京都中央区東銀座1丁目9番12号
上海領事館ビル
TEL:045-442-6800 FAX:045-442-6800
E-mail: info@shanghaiint.com

中国の財政調整制度の新展開
湖南省と日本の交流素描
尖閣列島・釣魚島問題をどう見るか
現代立憲主義の原理から見た現行中国憲法
中国における医療保険制度の改革と再構築
現代中国農村の高齢者と福祉

新編・中国を知るために
中国新思考
中国経済新論
中国翻訳必携

『中国のエリート高校生日本滞在記』(張雲裳、人見豊編著・日本僑報社・1900円+税)

08年5月31日から6月5日までの6日間、北京第四高等学校の2年生400人余りが修学旅行として日本を訪問した。本書は彼らが日本滞在中で感じたことをつづった1冊だ。日本は「きれい。サービスが行き届いている。ルールを守る。狭い」などよく言われることが書かれているが、今後を担う高校生が自分自身の体験に基づいて書いており、一読に値する。日本の特色はさまざまな事例から発見でき、彼らを選んだ事例には思いがけないモノもある。「日本の『手洗い文化』小考」はその一つである。

修学旅行生は東京班と大阪班に分かれ、東京班は慶應高校を訪問、同校の生徒と交流した。本書の翻訳は慶應高校の中国語教諭を中心に行われた。編著者の張雲裳氏は北京第四高等学校副校長、人見豊氏は慶應高校最初の中国語教員で、受け入れに中心的な役割を果たした。(亜娥歩)